

句集

蝮の道

高橋将夫

田一枚

知り尽くさんと

蝮の道

畦を越えれば隣の田圃がある。この宇宙の外には他の宇宙がいくつもあるらしい。俳句の世界にもまだまだ未知の世界がありそうなのがする。

俳句を知り尽くすという夏
炉冬屋の夢を追い続けられ
たら本望と思っている。

万
物
に
命
吹
き
込
む
初
明
り

宇
宙
暦
百
億
年
の
大
旦

羽子板に羽根の当たるも縁かな

去年の土付いて今年のスニーカー

去年の人去れば今年の人きたる

永遠の命おそろし春の宵

春眠の時も含めて一生涯

日陰とはありがたきもの残る雪

克己とは耕すことでありにけり

春塵も付加価値なりし古本屋

ムンクの絵よりも歪んで石鹼玉

魂の影を映して春障子

春障子重低音にふるへをり

うららかな末法の世に放射能

山焼の炎は高み目指すなり

宇治橋

佐保姫と夢の浮橋渡るかな

黄檗山

金色の布袋さまにも春愁

春の川未来が流れきては去る

春惜し母校の門を出るごとく

花万朶宇宙に隠れなき地球

花を待ち潮時を待ち迎へ待つ

泣く母を見た記憶なし葱坊主

死に仕度一度は済ませ母のどか

春野から帰りたがらぬ孫とをる

上り籾魚も時間も止められし

抓むだけなら薔薇の芽も許しさう

春の蝶蛹のころを懐かしむ

移りゆく命の姿繭の中

繭の中に入れば気になる外のこと

言霊に玉虫ついてをりにけり

夏の蝶言葉の綾にからまりぬ

夢の世の言葉遊びの涼しさよ

揚羽蝶宇宙の闇に染まりたる

母のゐる場所は風鈴よく鳴りぬ

貝を焼く女の汗の美しき

白玉や過ぎゆく日々のいとほしく

二重虹いつも未完の円のまま

金魚から見れば人間つまらなし

辛抱は心棒であり雲の峰

恐竜の面影残る羽抜鳥

大夕焼時空ゆがめてをりにけり

ふくよかな仏天竺牡丹なり

妄想は入道雲を凌ぐなり

草むしり地肌をなでて終はりけり

かなかなの声一山を淋しうす

一滴の雫より生れ秋蛭

秋の蝶いのちの果てを睦みあふ

よろづ屋にちちろ酒屋にきりぎりす

蟻螂の攻めも守りも斧かざす

啄木鳥の木を打つ音によどみなし



イカロス選書

句集
蜷の道

発行 平成二十九年三月二十五日

著者 高橋将夫

発行者 大山基利

発行所 株式会社 文學の森

〒一六九〇〇七五

東京都新宿区高田馬場二一〇二 田島ビル八階

tel 03-5292-9188 fax 03-5292-9199

e-mail mori@bungak.com

ホームページ <http://www.bungak.com>

印刷・製本 潮 貞男

©Masao Takahashi 2017. Printed in Japan

ISBN978-4-86438-630-2 C0092

※一・二冊はお取替えいたしません。

著者略歴

高橋将夫 (たかはし・まさお)

昭和20年 福井県生れ

平成4年 岡井省二に師事、「槐」入会

平成7年 「槐」同人

平成11年 槐賞受賞

平成13年 「槐」主宰を継承

句集 『新巻』『星の涙』『夾心』『真観』『如意宝珠』

編書 『岡井省二全句集』

現在 関西現代俳句協会副会長、俳人協会会員